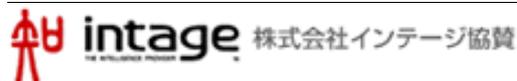


SPSS Open House 研究奨励賞 ~学生向け論文募集~

[研究奨励賞TOPへ](#)

第3回「SPSS Open House研究奨励賞」 受賞者&ポスターセッション展示論文の結果発表



11月17日、SPSSオフィスにて本年度の「SPSS Open House研究奨励賞」審査会が行われました。約2時間に渡る白熱した議論の結果、38件の応募論文より受賞論文が5件、ポスターセッション参加論文が14件決定しました。



審査委員会

審査委員長 専修大学 ネットワーク情報学部 教授 江原 淳氏
 審査委員 成蹊大学 工学部 教授 岩崎 学氏
 明治大学 理工学部 教授 大滝 厚氏
 明治学院大学 経済学部 教授 清水 聡氏
 早稲田大学 文学部 教授 豊田 秀樹氏
 INTAGE システムソリューション事業部
 副事業部長 マーケティングディレクター 宮首 賢治氏
 SPSS 上級副社長 村田 悦子

■ 審査委員長からの総評



専修大学 江原教授

本年度は38編の論文の応募があった。テーマもデータソースも統計手法もますますバラエティに富んできて、パッケージソフトによるデータハンドリングの普及を伺わせる。Clementineを用いた論文が初めて数編出てきたのも今年の特徴である。EDAやkohonenネットワークなどデータの可視化ツールを活用することは、各disciplineの想定するモデルや変数だけしか見ないのではなく、データに内包されている豊穡な情報の活用につながる。それによってモデリングの可能性が拡大するので、逆にdisciplineを試し鍛え成長させる良い緊張関係が期待される。学生・院生ともわずかな期間で1)計測やデータ収集・2)統計処理とデータ処理・3)各学問での命題体系と仮説群、を習得する必要があり、三者とも完成度の高い論文は少ない。しかし、この三角形が、1)2)のイノベーションによって確実により大きな三角形になって

きている。本年の多様化傾向が分散化でなくより実り多い成果につながるものであることを願う。(そのためには指導する側も「データ中心アプローチ」的な方法が必要となるであろうという自戒も含めて。)

■ 受賞者

PDFファイルの再配布は禁じます。

最優秀賞

賞金15万円 + 副賞 (SPSSトレーニングコース/3コース)

「音楽の旋律が心理的・生理的反応に及ぼす影響」

日本大学大学院 芸術学研究科

浜野 勝、三戸 勇氣

本研究は、音楽要素の中心的役割のある「旋律」から音楽要素を実証し、音楽が人間に与える影響を検討した。気分評価、印象評価、脳波の3指標から旋律がどのような影響を示すか検討した。その結果、旋律の違いにより3指標に影響が見られた。また、感情が変化すると同時に、脳活動にも影響があることが確認された。この研究から、「旋律」が音楽的に中心的役割であることがわかった。

▶ [PDFダウンロード](#) (80KB)

優秀賞 (院生)

賞金10万円 + 副賞 (SPSSトレーニングコース/2コース)

「英語学習の動機づけ構造における連続性の検討」

広島大学大学院 言語文化教育学専攻

田中 博晃

本研究では動機づけを動機づけ下位要素の連続体と解釈する発達モデルを英語教育の枠組みで検証することを目的とする。調査1では大学生を対象に質問紙調査を行い、相関の希薄化修正モデルである検証的因子分析から得られた因子間相関から、動機づけの連続性が支持された。調査2では高校生サンプルを追加し、平均構造を取り入れた多母集団同時分析により調査1で得られた連続性が高校生にも適用可能であることが支持された。

▶ [PDFダウンロード](#) (37KB)

優秀賞（学部生）

賞金10万円 + 副賞（SPSSトレーニングコース/2コース）

「クチコミの影響とそのメカニズム」

慶應義塾大学 商学部 小野晃典研究会
佐伯 佑介、福田 恭子、遠藤 麻美

消費者から消費者へのクチコミ情報は、企業から消費者への広告情報以上の影響を購買意思決定に及ぼすことがある。クチコミは一意的影響力を有するというよりも、様々なメカニズムを通じて購買意思決定に影響すると考えられる。本論は「広告的クチコミ」「評価的クチコミ」「社会的クチコミ」を識別して概念モデルを構築した上で、Amosによる共分散構造分析を用いて諸効果を測定する。そして、分析結果から幾つかの示唆を得る。

▶ [PDFダウンロード](#)（347KB）

INTAGE賞

賞金5万円 + 副賞（INTAGE提供の副賞）

「ディズニーランドとディズニーシーの好感度とリピート要因分析」

慶應義塾大学 総合政策学部
松浦 直彦、村瀬 裕樹、杉本 ひと美、西村 孝幸

この先5年、10年という長期的なスパンでディズニーリゾートの未来について考える際、2001年に開園したディズニーシーの成否は経営戦略上とても大きな意味を持つ。そこで本研究ではディズニーランドとディズニーシーを好感度とリピート要因という2つの視点から比較・分析を行った。T検定、因子+重回帰分析、共分散構造分析により分析した結果、ディズニーランドとディズニーシーの間には明らかに有意な違いが確認された。

▶ [PDFダウンロード](#)（138KB）

SPSS賞

賞金5万円 + 副賞（SPSSトレーニングコース/1コース）

「危機と消費者行動」

関西大学 商学部
藤島 大輔

本研究の目的は、消費者行動をもとに企業の危機的状況を詳細に分析し、企業の事後対策に貢献しようとするものである。現在、危機に対する研究蓄積は数多く存在するが、消費者行動をもとにしたそれは非常に少ないと言える。今回、我々は日本における乳製品食品中毒事件を取り上げ、FSPデータをもとに、消費者1人1人の購買行動を把握することによって、従来の通説には無い新しい知見を発見することができた。

▶ [PDFダウンロード](#)（378KB）

■ ポスターセッション展示論文

Open House来場者の投票によって、
【SPSS Open House参加者特別賞（賞金5万円）】が決まります！

- 【投票対象者】 [Open House](#) ご来場の方。
- 【投票方法】 Open Houseお申し込み後に届く受講票の「ポスターセッション投票券」に「最も優秀だと思われる発表」のポスター番号を記入し、会場にて投票してください。
投票締切：2日目（11/14）、13:00
本Websiteの論文と当日会場にて展示されるポスターは異なる場合がございます。
受賞論文は投票対象外となります。
- 【結果発表】 Open House 2日目（11/14）、14:10～
「第3回 SPSS Open House研究奨励賞 表彰式」

氏名五十音順

1 「市町村合併における最適人口規模の考察」

慶應義塾大学 法学部
麻生良文研究会
久保田 祐佳、大塚 華、森平 華奈子

市町村合併に関して、住民1人当たりの費用が最少になる「最適人口規模」が存在し、それを実現するように小規模市町村の合併を推進すべきであるという議論が存在する。この議論は正しいのかを検討する事がこの論文の目的である。既存の研究をもとに行った検証から、費用最小化が実現される最適人口規模は存在せず、問題の核心は中央と地方の役割分担であり、地域ごとに個別具体的に考えていくべきであるという結論に至った。

▶ [PDFダウンロード](#)（581KB）

2 「異文化における大学生の心的特性の比較研究 -日本と中国の大学生を対象として-」

関西学院大学 文学部
在原理沙、中田 裕子

本研究は日本と中国の大学生における、性格(神経症傾向、誠実性、開放性、外向性、調和性)、不安、信頼感(不信、対自的信頼、対他的信頼)の心的特性について、両国のアソシエーションルールを発見することを目的とした。結果は、両国では異なる心的特性のルールを持ち、また日本の大学生は中国の大学生に比べて導出されたルールが少なく、各特性間の関連性も少ないことが明らかとなった。

▶ [PDFダウンロード](#)（129KB）

3 「高校教育の質的向上と生徒側の特性の関係について」電気通信大学 電気通信学研究科
池本 賢司、関 英明

近年、教育の質の向上が議論され、様々な取り組みがなされている。そこで本研究では、ある私立高校に対し、「高校生活全体の満足度」調査アンケートを実施し、生徒側と学校側の係わり合いが、「満足度」にどのような影響を与えているのかを解析、検討した研究成果を示す。また、「文武両道」という校風や、心理的な要因を考慮したモデルを構成することで、生徒側のどの特性が満足度へ影響しているのかを検討していく。

[▶ PDFダウンロード \(354KB\)](#)**4** 「テーマパークにおける顧客満足とブランドの関係」専修大学 商学部
奥瀬ゼミナール
小曽根 洋介、根本 和矢、永石 雅美、市村 菜穂子

私たちはテーマパークにおける顧客満足とブランドの関係について研究し、テーマパークの顧客満足度には何が重要であるかについて調査した。今回の研究の流れとしては、テーマパークにおける顧客満足の定義を、テーマパークのサービス品質に対する評価、顧客満足とブランドの価値について述べ「顧客満足にはテーマパークのサービス品質だけではなくブランド価値も関わっている」という仮説を立ててこれを立証した。

[▶ PDFダウンロード \(199KB\)](#)**5** 「POSデータを使用した空間的視点からの店舗内購買行動分析」大阪府立大学大学院 経済学研究科
小沢 佳奈

百貨店POSデータを使用し顧客の店舗内空間行動について分析する。フロア移動確率図を作成し顧客の店舗内移動を概観した結果、当該百貨店では2階以上のフロアが活用しきれていないことが判明した。そこで2階以上へ顧客の移動を促すための糸口として、どのような要因が買い回りに影響を与えているか店舗内空間行動モデルを仮定し2項ロジット分析を用いて特定化を行った。その結果モデルが統計的に有意なことが確認された。

[▶ PDFダウンロード \(149KB\)](#)**6** 「ケンカに対する捉え方の研究 ~ 信頼感との関係とSD法によるイメージからみた特徴 ~」

中部大学 人文学部
神崎 竜也、中原 佑輔

本研究の目的は、信頼感と新たに作成したケンカに対する捉え方の関連性を検討することである。研究1では、ケンカに対する捉え方を因子分析し、3因子を抽出。その因子と信頼感との関連を検討した。その結果、2つの尺度の関連に男女差が見いだされた。研究2では、その男女差が「ケンカ」のイメージの差である可能性を検討した。イメージの測定結果から、イメージの男女差が2つの尺度間にみられる関連に影響を及ぼしていることが示唆された。

▶ [PDFダウンロード](#) (95KB)

7 「携帯メールを活用する若者におけるコミュニケーション分析 - 日本・韓国の比較分析を中心に - 」

早稲田大学大学院 国際情報通信研究科
金 エリ

本研究では、日本と韓国の大学生を対象に携帯メールの利用によって生じる若者のコミュニケーションの変化を定量的に把握するため、日韓の大学でアンケート調査を実施し、若者のコミュニケーションと携帯メールとの関係性を明らかにした。携帯メールの普及が若者のコミュニケーションにどのような影響を与えているかを共分散構造分析手法（Amos）に依拠して解析し、日本と韓国の比較分析しながら、分析した。

▶ [PDFダウンロード](#) (374KB)

8 「服飾ブランドの事象構造分析 - Kohonenネットワークを応用した学際研究モデルの開発 - 」

慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科
熊坂賢次研究室
小野田 哲弥、中野 友香、伊藤 江里、和田 妙子

多様化した文化事象の総体を把握するためには、膨大なデータの取得と、そのデータ的特性に適合した分析モデルの開発が必要であり、その解釈には当該ジャンルの有識者の協力が不可欠である。本研究論文は、緻密なデータクリーニングとKohonenネットワークの応用により、服飾ブランドの事象構造を視覚化した上で、それを経験的知識をも動員して解釈した、実験的コラボレーションの成果報告である。

▶ [PDFダウンロード](#) (803KB)

9 「携帯電話ユーザにおける空間構造を用いたセグメンテーション戦略」

日本工業大学大学院 工学研究科
寺社下 晃

本研究では、既存ユーザについてユーザ分類法を確立し、各ユーザグループにとって利用価値の高い携帯電話とはどのようなものかについて検証するとともに、キャリアやメーカーは、分類結果からどのような企業戦略を持つことが望ましいかを検討する。既存のユーザ分類法では分析不可能なユーザについても、空間構造を用いることにより、簡単な計算で細かく分析できる手法を開発した。その結果、様々な仮説を立てることに成功した。

[▶ PDFダウンロード \(142KB\)](#)**10** 「呼気ガス動態シミュレーションモデルの予測的妥当性」筑波大学大学院 体育科学研究科
高橋 信二

コスタリカにおいて胃癌と健常対照群とのスクリーニングを目的とする血清 P G (ペプシノーゲン) の比較をケースコントロールスタディで行い統計学的検討を加えた。P G Iおよび P G I/P G II比で胃癌群、健常対照群に有意差が見られ、カットオフ値を $PGI \leq 60$ or 70 かつ $PGI/PGII \leq 2.5$ の場合で感度 = 78%, 特異度63%が得られた。コスタリカにおいても胃癌の血清学的スクリーニングの可能性が示唆され、胃癌集団検診の実施に寄与するものと考えられる。

[▶ PDFダウンロード \(699KB\)](#)**11** 「コスタリカ共和国での胃癌スクリーニングにおけるペプシノーゲン法 (PG法) の有用性と限界」コスタリカ大学 保健研究所
玉田 孝幸、Fernando Mena

コスタリカにおいて胃癌と健常対照群とのスクリーニングを目的とする血清 P G (ペプシノーゲン) の比較をケースコントロールスタディで行い統計学的検討を加えた。P G Iおよび P G I/P G II比で胃癌群、健常対照群に有意差が見られ、カットオフ値を $PGI \leq 60$ or 70 かつ $PGI/PGII \leq 2.5$ の場合で感度 = 78%, 特異度63%が得られた。コスタリカにおいても胃癌の血清学的スクリーニングの可能性が示唆され、胃癌集団検診の実施に寄与するものと考えられる。

[▶ PDFダウンロード \(121KB\)](#)**12** 「包括的犯罪不安モデルの実証的検討」日本大学大学院 文学研究科
舟生 真奈美

近年の犯罪情勢悪化を受けて、犯罪不安の高まりや体感治安の低下が叫ばれるようになった。犯罪不安は、一般に、犯罪が有する社会的損失の重要な要素の一つとして認識されている。そこで、犯罪不安の心的過程を明らかにするために、犯罪不安モデルを作成し、その因子構造の検証を行った。結果、犯罪不安には間接的な影響を含む様々な要因が混在しそれらが複雑に関係していることがわかった。

▶ [PDFダウンロード\(前\)](#) (49KB)

▶ [PDFダウンロード\(後\)](#) (85KB)

13 「バレエ衣裳の認識に対する主成分分析の適用 - 創作活動への科学的思考を目指して -」

共立女子大学大学院 家政学研究科
堀木 結

演劇における重要な構成要素である舞台衣裳の効果を2種類のバレエ衣裳を対象として、主成分分析により検討した。30語の評価用語により、白鳥の湖の「オデット」およびくるみ割り人形の「雪の精」の衣裳を対象とし、多様な受け手に与える印象の相違を明らかにした。「豪華な装飾感」、「ナチュラル感」、「硬質感」、「軽快感」、「伝統的気品感」の5種類の主成分により、全体の印象の57.0%を説明しうることが認められた。

▶ [PDFダウンロード](#) (259KB)

14 「パワートレーニング段階に対応したテストの階層性」

筑波大学大学院 人間総合科学研究科
山田 庸

本研究の目的は、サッカー選手を対象に、トレーニング段階に対応したパワーテストの信頼性、妥当性に加えて階層性を検証することであった。横断データからテストの信頼性と妥当性、テスト間の階層性を確認した。縦断データから、テスト間の階層性構造の不変性を検証した。トレーニング発達段階に対応したテスト間のパワーテストの階層性が検証され、テスト比較によるパワー発達評価が可能となった。

▶ [PDFダウンロード](#) (189KB)

過去の募集要項と審査結果

■ 第3回 (2003年)

■ 第2回 (2002年)

■ 第1回 (2001年)

募集要項

結果発表

募集要項

結果発表

募集要項

結果発表